

# 思考力を高める言語活動の工夫

～生徒が主体的となって学ぶ授業づくりを目指して～

南ヶ丘中学校 数学科 松本 将史

## 1 授業改善の視点

授業振り返り表より

- ・ 思考力を高めるための言語活動の工夫

## 2 具体的な実践

### (1) 導入の際での言語活動

導入の際には、本時の学習内容について、どうやって考えれば解けそうか以下のような視点で見通しをもたせる場を位置付けている。

- ①どの既習の学習内容が活用できるか。
- ②どんな手順で考えていけばよさそうか。

これは、第1学年「正の数・負の数」の第10時「加法と減法の混ざった式の計算」の授業でのやりとりである。

T：「 $(+5)-(+2)+(-9)-(-4)$ 」の計算の仕方について、見通しをもちましょう。  
A：今までの問題と違って、加法と減法が混じっているな。  
B：前の授業で「減法は加法に直す」って習ったから、使えないかな。  
C：「加法の交換法則」や「結合法則」を使うと、もっと簡単に計算できそうだよ。

[生徒の授業風景]



生徒達は、「既習の学習内容を使うことで問題を解決できる力」や「筋道立てて考えていく力」など、数学を学ぶ上で大切な思考力が、少しずつ身に付いてきている。

### (2) 個人追究の際の言語活動

個人追究の際には、自分で課題に対して充分考える時間を確保している。答えを書くだけで満足することなく、

- ①その答えとなる根拠は何か。
- ②他の見方や考え方はないか。

という考え方も記述するように指導している。

仲間と意見交流をすることのよさは以下のようなことがあると考えている。

- ① 分からないところを話すことにより、仲間と共に学び、課題を解決することができる。
- ② 違う考え方を求めて交流することで、多様な見方にふれることができる。
- ③ 納得させる説明ができるように話すことで自分の思考を整理し、学習の深まりをもつことができる。

交流活動を行うことの価値を生徒が感じたとき、主体的に「交流したいな」という思いをもって活動できると考えている。

[生徒の交流風景]



### (3) 終末の場での言語活動

終末では、生徒自身の言葉で授業のまとめを書き、発表する場面を設定した。その際には、以下の視点でまとめを書くことを指導している。

- ①今日分かったことは何か。
- ②既習の学習のどの公式を活用したか。
- ③どのような手順で考えるとよいか。
- ④さらに考えたいと思ったことは何か。

第1学年「文字と式」の第11時「1次式の加法と減法」を終えて、生徒は以下のような感想を書いている。

#### 【生徒の感想から】

1次式の加法と減法の計算をしました。前習った分配法則を使ってかっこを外せば、後は分配法則を使って項をまとめることで、どんな1次式の加法・減法も計算できそうだなと思いました。1次式の乗法はどうやって計算できるのか、疑問に思いました。

この生徒のように、視点をもって振り返りをすることで、本時自分が考察したことを整理することができた。

### 3 実践を振り返って考えられること

- 「導入・追究・振り返り」の、どの場面においても、視点をもって言語活動に取り組んでいる。このことで、表現力が豊かになるだけでなく、数学の学び方を同時に指導することができる。
- 特に、授業の振り返りの視点の「既習の学習内容のどれを活用したか」と「どのような手順で考えたか」を振り替えさせることによって、「次の時間も既習の学習内容を活用して考えたいな」「見通しをもって考えたいな」という思いを生徒にもたせることができつつある。

- 今回は、話すことで思考力を高める工夫の実践が中心であったが、今後は、より思考力を高められるようなノート指導の工夫を行っていきたい。